

東レエンジニアリング西日本は、Engineering と Maintenance の技量を武器に、
安全で高品質な製品を提供できる安定成長企業を目指します。

新年のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。
旧年中は格別のご高配を賜りまして誠にありがとうございました。



さて本年の干支は午（ウマ）ですが、特徴は「激動」、「情熱」、「行動力」と云われています。

国内政治に目を向ければ昨年誕生した高市早苗内閣が「責任ある積極財政」を掲げ、戦略的な産業分野（次世代半導体、AIなど）への集中的な国家投資を進めると同時に、経済安全保障の一環として医薬品の国内生産基盤強化に向けた設備投資促進施策（補助金など）が活発化すると予想されます。

一方世界情勢においては、年末に中間選挙を迎える米トランプ政権が支持拡大に向けた数多くの景気刺激策を打つことが予想に堅く、関税交渉で引き出した日本も含む諸外国からの投資も本格化し、世界経済は引き続き米国中心に大きく動くことが見込まれます。

冒頭述べました通り、まさに午年らしく「激動」の一年が予想される中、当社としましても行動力と決断力でエネルギーに満ちた実り豊かな一年を目指します。外部プラント事業においては、東レエンジニアリング（以下 TRENG）プラント事業とともに半導体材料分野、医薬分野を中心に果敢に攻め、電装製作所においては制御盤製作を通して TRENG グループ LIB 分野攻めを後押し、更に施設・保全事業においては東レ設備力の更なる強化に向け全社一丸で臨む所存でございます。

その思いを込めて 2026 年会社方針を

「人と技術で新たな飛躍 — 信頼 敬意 約束 —」

としました。

本年も変わらぬご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます

代表取締役社長 北野真也

人材育成について

人材育成制度に基づき、9月にリーダー研修、10月に一次キャリアレビュー、11月に二次キャリアレビュー、12月に三次アセスメントを実施しました。

リーダー研修では、チームマネジメントに必要な対人関係能力やリーダーシップのレベルアップ、一次・二次のキャリアレビューでは、若手の受講者が自身の業務の振り返り、グループワークでの討議・情報共有により自身の課題解決へのヒントを得ることができました。

また三次アセスメントでは、将来のキャリアアップを目指すための指導・アドバイスを受けました。今後も継続して人材の育成に取り組んでいきます。



三次アセスメント

G T活動報告会 報告事例紹介

11月7日に開催したG T活動報告会より、報告事例を紹介します。

タイトル：『DX活用による業務効率化について』

報告部署：滋賀保全事業部 朝倉景介サークル

担当業務： 東レ滋賀事業場 ペースト・無機材・トレビーノ生産設備の保全業務



現状
把握

事業部のG T活動の方針である「DX活動による業務効率化」に取り組むにあたり、日々の業務の中の問題点をピックアップ

問題点
1

設備ごとに点検表をExcelで作成し、点検予定や点検結果を管理・記録しているが、設備ごとに点検表が独立していて、検索に時間がかかり、必要な情報がすぐに見つけられない。点検表の管理自体も負担になっている。

問題点
2

トラブル分析について、設備管理のデータをまとめていたNotesデータベースが廃止され、その後導入されたシステムでは、多くのデータから過去のトラブル履歴を検索・閲覧するのにとても時間がかかるようになった。

改善
1

Power BIを活用し、データを可視化！

1. すべての点検表を統合し、Power BIの画面で点検対象の場所、項目、担当者、実施時期などを可視化。月ごとの点検件数や点検の実施割合をグラフで表示。スライサー機能で、確認したい項目を選択可能に！

→一つの画面ですべての点検表が確認・更新でき、進捗フォローできるようになり、作業管理、データ管理、点検進捗管理を効率化し、作業分担の適正化が図れた。

2. 過去のデータを転記し、Power BIでトラブルデータを一つにまとめたデータベースを作成。トラブル内容の一覧、発生件数の棒グラフ、原因分析の円グラフでデータ見える化！

→過去から現在のデータを一括管理することで検索時間が削減でき、更に原因分類・トラブルの傾向が見えるようになった。

改善
2

ホワイトボードでの作業予定管理

毎日その日の作業予定・工事予定をホワイトボードに手書きで記入し、紙に印刷、承認印（東レ生産課）、ファイル保管など手順が煩雑で、記入から保管まで10分以上かかっていた。

改善
3

Excelで作成、box保存（東レ生産課も閲覧可能）に変更！

記入から保管まで3分に時間短縮し、ペーパーレスも実現！

更に！ 滋賀保全事業部内に、Power BIでの管理を水平展開

東レ生産設備の保全を担当している各グループでもPower BIを活用した管理方法を導入。

今後の
課題

- ・Share Pointを活用し、東レ工務、生産課、当社との情報共有強化
- ・完成図書の電子化を推進し、現場での閲覧環境を整備
- ・Power BIを活用し、修繕費用見える化

タイトル：『不具合流出防止への取り組み』～作業不具合の可視化～

報告部署：電製事業部 風の谷サークル

担当業務：制御盤製作の準備・仕上げ、配線、検査および品質管理



課題

経緯：制御盤を設計・製作する過程の各作業での社内不具合が、今までのやり方では削減できない。

目的：社内不具合を低減し、不具合流出防止を図る。

課題→社内不具合情報の共有方法、分析方法の確立

社内不具合情報の収集、分析についての改善～「検査結果報告書」の運用～

〈改善前〉

1. 検査後、検査結果報告書に不具合内容を記載し、盤に貼り付け。
2. 設計担当、製作担当に修整を依頼。
3. 修正完了後、検査結果報告書を回収、集計フォーマット(Excel)に手入力。
↓
事業部内の横展開が出来ていなかった。
集計フォーマットの入力に時間がかかる。
回収・入力忘れが発生。
→運用・水平展開が停滞

〈改善後〉

1. 2. の手順は改善前と変更ナシ
3. 集計フォーマットに代えて、分析にセールスフォース(以下 SFA)を活用。
↓
入力するだけで、自動で集計・分析が可能。
紙での保管が不要になった。
グラフによる可視化が容易で、状況把握
案件・項目ごとに分析が可能になった。
→状況の可視化ができ、情報共有を強化

2024 年度分析

社内不具合発生件数：1230 件

設計起因：228 件 (内図面・仕様書の不具合が 91%)

製作起因：937 件 (内配線の不具合 40%)

対策

2025 年 3 月品質会議で対策を検討→2025 年度 G T 活動のテーマ・目標を設定

目標：社内不具合件数 1230 件からの半減！

1. スキルアップ勉強会の実施 (1 回/月)
2. 直近の社内不具合情報の共有
3. 設計不具合情報の共有
4. 製作担当の自主検査強化 (組み立て完了チェックシートの活用)

2025 年度分析

10 月末時点の社内不具合発生件数：1056 件

設計起因：21 件 (昨年度 228 件から 1/10 に減少！)

製作起因：1035 件 (内配線不具合が 48%)

→分析の結果、大型案件の製作開始時にミスが多いことがわかった。

今後の取組

SFA による見える化はできたが、社内不具合半減への対策の明確化が必要

社内不具合情報の共有強化

「改善する」意識、モチベーションの向上

事業部全員一丸となって、改善活動を継続する！